



□■□ 年頭のごあいさつ □■□

新年明けましておめでとうございます。

年末からのコロナ感染症第8波の波に飲み込まれ、大変な1年の始まりとなってしまいました。またインフルエンザ感染症同時流行もあり、更に憂慮される事態となっています。

今後の支援室の活動は、これまでの課題を整理し次のステップを目指していきたいと考えます。コロナ禍のため、医療介護連携のための部会や勉強会が休止せざるを得ない状況が続きました。そのため各介護事業所や各医療機関による感染症を含めた危機に対する認識や対応に大きな差異が生まれてきているように感じます。先進的な他地区の活動を参考に有効な部会の設置や勉強会開催を勧めなければと考えます。

朝霞地区四市はそれぞれの行政の事情もあり足並みをそろえる困難さではありますが、皆様のご理解とご協力を頂き、朝霞地区で目指したい医療介護連携の形を作りたいと思います。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

朝霞地区医師会地域包括ケア支援室 室長 門田隆太郎

ACP普及啓発活動について

令和4年度朝霞地区のACP普及活動は下記の様に開催されました。市ごとに特色のある内容で開催されています。

■朝霞市

・2022年6月29日（塩味病院：稲生 実枝医師）15名参加

■志木市

・2022年10月20日（柳瀬川ファミリークリニック：橋原 正基医師）20名参加

【開催予定】

・2022年3月予定（柏町クリニック：相原 大和医師）

■和光市

・2022年12月10日（和光ホームケアクリニック：木下 朋雄医師）17名参加

【開催予定】

・2023年2月3日（和光ホームケアクリニック：木下 朋雄医師）

■新座市

・2022年9月16日（堀ノ内病院：堀越 洋一医師）19名参加

・2022年9月29日（堀ノ内病院：堀越 洋一医師）23名参加

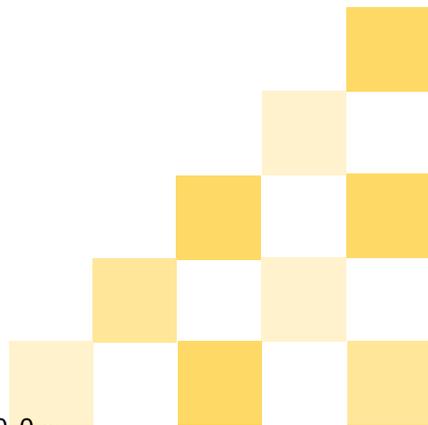
・2022年11月2日（海江田医院：海江田 亮医師）24名参加

・2022年11月24日（堀ノ内病院：堀越 洋一医師）18名参加

・2022年12月16日（堀ノ内病院：堀越 洋一医師）25名参加

・2022年1月11日（海江田医院：海江田 亮医師）30名参加

・2022年1月26日（堀ノ内病院：堀越 洋一医師）北野ふれあいの家13：00～



医療・福祉の質が高まる生活支援記録法（F-SOAIP）に関する研修会（4市との合同企画）

援助者の支援の質の向上を目的とした観察記録の意義や生活支援記録法（F-SOAIP）のポイントについての講義と演習

日時：（第1回）令和4年11月30日（第2回）令和5年1月20日

方法：ZOOMウェビナー

対象：介護保険サービス事業所職員 67名

講師：埼玉県立大学保険医療福祉学部 准教授 蔦末憲子 氏



■生活支援記録法（F-SOAIP）とは・・・

多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践課程において、生活支援の観点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、項目別で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生む、リフレクティブ（考え深い・内省的）な経過記録法です。支援経過を記録する際、ニーズ・問題の着目点

(F)、主観的情報：利用者の言葉(S)、客観的情報：観察や支援で得た情報(O)、気づき・判断・見立て(A)、働きかけ(I)、計画(P)の6項目に分けて記述する方法です。





朝霞地区の在宅緩和ケアアンケート調査を実施しました

住み慣れた地域で、がんを抱えても自分らしい暮らしを人生の最後まで継続できることを目標に、朝霞地区で緩和ケアに対する医療・介護従事者に対しアンケート調査を昨年末に実施しました。（調査結果は、1月16日付でHPに掲載）調査の結果、「事例検討」「連携の持ち方」についての研修会を希望する声が多く聞かれました。

令和4年度の「在宅緩和ケア研修会」は、TMGあさか医療センター緩和ケアセンター長である金井先生に、昨年に引き続き講演していただくことに決定しました。テーマは『地域でがんの人を支えるとき』です。事例についても講演の中で盛り込んでいただける内容になります。皆さまのご参加をお待ちしています。



新型コロナウイルス感染症対応の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の流行が3年間に及び、今なお第8波の渦中にあります。コロナの次の波や新たな感染症に備えた更なる病診連携の強化、医療介護連携の強化を図るため支援室が関わったコロナ対応を振り返ってみました。



1. 新型コロナ自宅療養者支援に関する意見交換会の発足

朝霞地区の訪問診療医が発起人となり、令和3年10月から朝霞保健所感染症担当、訪問看護ステーション3事業所、埼玉病院副院長、TMGあさか医療センター感染症担当医も加わり、「新型コロナ自宅療養者支援に関する意見交換会」が立ち上がり、週1回(現在1回/2W)、夜1時間のZOOM会議が開催されています。

この意見交換会から次のような取り組みが生まれました。

- ①保健所依頼の自宅療養者健康観察に訪問診療医4名協力(第5波：R3.12月から)
- ②新型コロナ感染症対応研修(第6波：令和3年度2回)
- ③コロナ病床のある埼玉病院の退院支援(協力病院)体制について医師会に具申(R4.2月)⇒医師会で体制整備
- ④新型コロナ感染症対応可能な訪問看護ステーションリスト作成(R4.2月)
- ⑤高齢者施設クラスター対応に訪問診療医が支援に入る(R4.3月)
- ⑥朝霞地区内訪問看護ステーション感染症・災害時対応協定書(案)作成(R4.6月)
- ⑦介護事業所への感染防御のための医療体制の検討(R4.6月)



2. 介護事業所への感染防御のための医療体制の検討(第7波：R4年度の取り組み)

- ①朝霞地区内のICD(感染症専門医)2名・ICN(感染症看護専門看護師)3名の登録
- ②新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査(R4.8月)
- ③介護事業所インタビュー
特養・サ高住・有料老人ホーム・訪問看護ステーション・居宅介護事業所 各1事業所
*②③ご協力いただきありがとうございました。
- ④コロナ対応研修会(1/26)「保健・医療・介護現場でおきていたこと」*ご案内済み



多くの医療、介護現場が新型コロナ感染症の洗礼を受け、それぞれが手探りで検討・対応を重ねてきておられますが、次々と新たな課題が生まれてきます。在宅医療介護連携においても、今まで見ていなかった介護施設の現状に接する機会にもなりました。

この3年間の経験を、新たな感染症発生時や災害時の危機管理対応に活かすためにも記録を残し、そして仕組みを作っていくことが大切と考えます。支援室へのご意見等お寄せ下さい。



朝霞地区医師会 地域包括ケア支援室ホームページ

<http://areacare.asakamed.com/>

